

第 6 期宇治市生涯学習審議会 会議録

名 称	第 6 期宇治市生涯学習審議会 第 12 回審議会						
日 時	平成 27 年 4 月 21 日 (火) 午後 2 時 ~ 3 時 45 分						
場 所	生涯学習センター 2 階 一般研修室						
出席者	委 員	○	岩井 浩	○	小宮山 恭子	○	西山 正一
		×	大井 悟	○	迫 きよみ	○	向山 ひろ子
		○	奥西 隆三	○	清水 桂子	○	森川 知史
		○	門脇 洋子	×	杉本 厚夫	○	六嶋由美子
		○	木村 孝	×	長積 仁	○	弓指 義弘
		×	桑原 千幸				
	事 務 局	○	藤原 千鶴(教育部参事(兼)生涯学習課長(兼)生涯学習センター所長)				
		○	瀬野 克幸(教育支援センター長)				
		○	富治林 順哉(教育支援課長)				
		○	今莊 真樹(生涯学習課副課長)				
		○	前田 暢(生涯学習課主幹兼生涯スポーツ係長)				
		○	北池 顕子(生涯学習課事業係長(兼)生涯学習センター主査)				
		○	野口 里佳(生涯学習課生涯学習係長)				
		○	粕谷 祐次(生涯学習課生涯学習係主任)				
○	西田 知世(生涯学習課生涯学習係主事)						
傍聴者	0 名						

会議要旨は、下記のとおりである。

・委員の委嘱について

岩井浩委員（笠取第二小学校校長）を新たに委嘱した。

・平成 27 年度委員名簿について

訂正がないことを確認し、ホームページで公開する。 委員了承

・第 11 回審議会の会議録について

訂正がないことを確認し、ホームページで公開する。 委員了承

1 . 報告事項

(事務局)

・平成 27 年度宇治市教育委員会の事務局体制について

次長 2 人を廃し、副部長 1 人を配置。また、主幹を段階的に廃し、副課長を配置することとなった。市内 3 か所の青少年センターは、社会教育担当次長から、教育支援センター長の管轄に変更した。加えて、人事異動による担当者の変更があった。

・宇治市生涯学習人材バンク研修会について

(事務局)

平成 27 年 2 月 20 日(金) 宇治市生涯学習センターにて開催。当審議会からも人材バンク登録講師と、一般参加で 2 名の委員の参加があった。今回は前半を研修会、後半を登録者交流会とした。

研修会は昨年度に引き続き、当審議会の長積委員に講師をお願いした。申込時にアンケートを取って 5 つのテーマから、希望の多かった 3 つについて講演していただいた。

登録者交流会は、これまで登録講師から要望があったもので、今回が初めての開催。5 ~6 人ずつ 3 つのテーブルに分かれ、「活動についての悩みや相談したいこと」等の 3 つのテーマについて話し合ってもらった。なるべく多くの人と話せるように、テーマごとに半分のメンバーが隣に移動していくという方式を採った。

アンケートでは、ほとんど全員の方が参加して良かったとの回答だった。今年度以降も、研修会・交流会を実施していきたい。

(委員)

参加者は、交流や社会還元、教育を目指した意欲的な方が多かった。人材バンクがこういう方向に進んでいくのは良いと思う。情報をもっと発信して広げていければと思う。

(委員)

私が話し合った方々は前向きで、まなびんぐや夏休み子どもフェアなど、様々に活動している人が多かった。活動している人どうしの連携や情報共有が大事だ。人材バンクの概要版の冊子をもっと広く配布してほしい。

(委員)

私の町内会の地蔵盆で人材バンク講師として当審議会の六嶋委員に依頼したことがある。

(委員)

その時は、依頼者も登録講師だった。一般の人への知名度を上げることが課題。

・宇治市スポーツ推進計画について

(事務局)

平成 27 年 3 月に計画を策定した。スポーツ振興計画見直し検討委員会は、当審議会の長積委員が委員長となり、3 名の委員にも参画していただいた。スポーツの推進だけでなく、スポーツをまちづくりに生かすことなどを目標に設定し、またマーケティングの理念を取り入れた。計画の進行管理については、当審議会で年に一回の検証をお願いしたい。

(委員)

数値による評価は難しいと思うが、チェックの際にはわかりやすい。今回、検証のため

に数値目標を設定できたことを評価している。

(委員)

アンケートでは、体を動かすことが好きな人の割合が80%になっている。これは無作為抽出なのか。近年、地域の運動会に人が集まらない状況なので、この数字は信じがたい。

(事務局)

平成18年に実施したもののだが、無作為抽出で行ったアンケートであった。

(委員)

地域にもよる。私の地域の運動会ではたくさん人が集まっている。やり方の問題では。

(委員)

高齢者の参加者も増えている。いち種目に出場するたびに、小さな文房具でも参加賞がもらえるなど、工夫が必要。

(委員)

乳幼児期の子どもの遊び場について、他の計画などでも公園の整備などについて見かけるが、実際にどう進めていくのか。

(事務局)

パブリックコメントでも要望をいただいている。新規に造るよりも、今ある設備の有効利用を検討している。

(委員)

既存の公園でも、使われていないところがあるので有効活用してほしい。

(委員)

子どもの声がうるさいと近所から苦情が出たり、ボールで遊んではいけない公園が多い。経緯があるのだろうが、どこで遊べばいいのか。難しい問題だ。

(委員)

スポーツ振興計画見直し検討委員会の公募の委員は、普段スポーツをしない人だった。我々のようにずっとスポーツと関わってきた者にとっては、初めて聞く意見がたくさん出て新鮮だった。普段スポーツをしない人がしたくなるような計画を考えた。

(委員)

本計画にかかるパブリックコメントは60~70件あったようだ。0件のものもある中で、

注目されているのだなと感じた。

2. 協議事項

・ 今期の報告書について

(委員長)

これまで議論してきたことをもとに報告書をまとめて、教育長に報告することになる。今期の報告書の内容に関するでも今後のことでも、何でも言ってほしい。

(事務局)

この間の経緯として、平成 26 年 4 月より当審議会の委員全員が社会教育委員を兼ねるという条例改正を行った。また、同時に本市教育委員会事務局に教育支援センターが新たに設置され、学校と地域を結びつける担当ができた。事務局側でその部署からも担当者が出席している。

(委員)

「地域コーディネーター」と「学校支援コーディネーター」、言葉のニュアンスは異なってくる。これからどちらの名称で進めていくつもりか。個人的には前者の方が、地域に根差す感じがして、しっくりくる。

(事務局)

内容についてはこれから検討していくところだが、名称の整理は必要だと認識している。何を重要視するかによっても変わってくる部分だと思う。審議会で今後もこの部分の議論をしていただければと思う。

(委員長)

報告書で提案した、社会教育と学校教育の「連絡会」でもそういう議論が出ればいい。社会教育をどうしていくのかということについては、来期以降の課題となる。

(委員)

報告書は教育委員会だけでなく、市役所全体に周知してほしい。各部署でよく読んで、考えてもらいたい。他の分野でやっていることは詳しく知らないものだと思う。

(委員)

私は選挙管理委員会の活動をしているが、東宇治中学校の生徒会選挙に、実際の選挙で使う投票箱を使用したことがある。こういう活動も他部署ではあまり知られていない。

(委員)

子どもにきっかけを与えるのはいいことだ。私の地域の小学校でも、お茶の木を植えて

子どもに触れる機会を与えている。

(委員)

私の長男は2歳のころ初めて生涯学習センターの「宇治まなびんぐ」に参加した。ボランティア活動で東北に行ったことがあり、大学に進学してボランティアサークルに入ろうと思っているらしい。成人式実行委員会にも興味を持っている。特に促したわけではないが、「子どもの頃にお世話になったから」と思っているようだ。社会教育はこのように、自発的に動くのに長い積み重ねが要る。2、3年では成果が出ないものだ。

(委員)

研修会などで参加するラウンドテーブルでの発表が難しい。PTA や他のボランティア活動のことは話せても、他の地域の社会教育委員のような、委員としての活動はしていない。

(事務局)

会議が年に2回のところや、会期ごとに委員を全員入れ替えるところもある。木津川市のように、劇で活動するところもあり、本当に様々だ。

(委員長)

私は、宇治は市の規模としてはちょうどいいと思う。大きすぎず、小さすぎない。近隣の市町とは規模が違う。我々は社会教育委員として議論するのが主であって直接動くのではないと思う。議論し、提言し、制度の制定を行政に促し、達成を目指す。

(委員)

こういう活動をしてうまくいったとか、有名人を呼んでたくさん集客したとか、そういう報告だけではプラスにならない。みんな頑張っているとは思っているのだが。

(委員)

以前、公民館運営審議会、図書館運営審議会、社会教育委員会があった頃、各々から委員を出してまなびんぐの実行委員会を組織していた。関わりを持つことができ、勉強になった。

(委員)

当審議会は、各々で活動をしている人たちが集まって情報交換をし、議論をしている。地域も分野もばらついているので、全く知らなかったことがたくさん知れた。こういうものを外部へ発散していければと思う。

(委員長)

確かに、情報発信は我々に足りないところだ。

3. その他

(事務局)

・平成 27 年度社会教育事業について

今年度の事業について発表があった。主なものは以下の通り。

平成 27 年 6 月 18 日京都府社会教育委員連絡協議会総会(南丹市)

平成 27 年 6 月 25 日山城地方社会教育委員連絡協議会総会(南山城村)

平成 27 年 9 月 4 日近畿地区社会教育研究大会(奈良市)

平成 27 年 10 月 7 日~9 日第 57 回全国社会教育研究大会(大分大会)

第 7 期の委員に出欠を取る。

(委員長)

これで今期の審議会は終了となる。日程を調整し、教育長に報告書を提出する。実現のために尽力してもらいたいと伝えたい。

(委員)

今期の審議会では、報告書の内容について議論をしてきた。研修等にも参加し、勉強になった。今後も当審議会の活動が社会教育に貢献できるよう、活発な議論をお願いしたい。